

令和5年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山中学校

校長 高森 俊広

1 学校教育目標等

未来を切り拓く基礎力・思考力・実践力をもち、支えあい学びあう生徒の育成
[基礎力：知識・技能 思考力：思考力・判断力・表現力等 実践力：学びに向かう力、人間性等]

2 今年度の重点目標

- (1) さわやかな環境：安全安心な環境づくり
- (2) ささえあう仲間：将来や社会の糸口をつかむ仲間づくり
- (3) やくどうする授業：主体的・対話的で深く学ぶ授業づくり
- (4) まごころかよう学校：生徒と大人が真摯に向き合う学校づくり

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
安全管理	安全・防災・健康教育	B	予定していた健康に関する講演会は実施できた。保体委員会の活動でもヒヤリハットの作成や換気などができた。アレルギーに対しては今後も慎重な対応が必要である。
	安全意識の向上	A	安全点検の徹底や避難訓練の実施、救急連絡体制の確認等により、職員及び生徒の意識向上が図れた。今後も継続したい。
生徒指導	生徒理解と開発的生徒指導の推進	B	学校行事での目標設定と振り返りで自分の良いところに気付き、自己肯定感が向上した。多様な相談体制による教育相談も進んだ。
	不登校や問題行動、いじめの未然防止と早期解決	B	いじめについてはアンケートや教育相談からの早期発見で、全て解決に向かっている。不登校についてもSCやSSWと連携して対応し、成果も見られるが、人数としてはまだ多いので、今後も個別の対応が必要である。
学習指導	学習形態の工夫と授業改善	B	授業スタンダードに基づいた授業や少人数授業等でわかりやすい授業づくりに取り組めた。授業が楽しく分かりやすいという生徒も多い。
	家庭学習の充実と個別最適な学びの促進	B	家庭学習が充実する課題を出したりタブレットを活用したりして個に応じた学習を進められた。しかし家庭での学習習慣をつけたら生徒が主体的に学んだりするためにはさらに工夫が必要である。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会との連携	A	学校運営協議会を定期的に開催し、外部講師をお願いしたり、生徒を交えた「四つの力委員会」での話し合いをもとにより良い学校づくりを進めたりすることができた。
	情報発信と社会に開かれた教育課程	A	学校だよりや各種通信、HPの更新等での情報発信、参観日やオープンスクールなどの実施により学校の様子を伝えることができた。今後も職員の過度な負担にならないようにしながら情報発信を続けていく。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・学校全体で様々な角度から活動を振り返り、教職員で話し合って具体的な改善策を提示されている。これからもお世話になりたい。
- ・生徒同士の対話や仲間作りについて、アンケートでも前期比で向上している。「まごころかよう学校」については前期比と同様なので、課題が残っているままなのかもしれない。
- ・校内や保護者の評価がベースになっているが、他の学校と比べてという評価軸もあるとより良い指導ができると思う。委員としてもそういう情報をキャッチしていきたい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・全体的に見れば良い結果が出ている。できていない点を改善するのも大切だが、できている点を伸ばしていくことも必要である。
- ・生徒、保護者アンケートともに前期比で下がっている項目がないのはすばらしい。
- ・道徳の項目やルールやモラルの向上、対話や相談できること等に伴って自己肯定感も高まっているのではないかと感じる。
- ・アンケート結果については学年毎以外に、校区ごとや入部の有無など他のセグメントでも分析していくと課題が見えやすくなるかもしれない。
- ・きめ細かく活動を振り返り、次への指標も示されている。
- ・開かれた学校であることが、安心・安全な学校につながる。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分 野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
安全管理	・学校が安全・安心であることは学校生活の基本で、生徒や保護者、地域住民と連携しながら取り組まれていることがよくわかる。 ・人がかわるので年度当初の周知徹底や共通理解は危機管理上大切なことである。 ・先日地震があったが、抜き打ちの避難訓練ではどんな様子だったか教えてほしい。(回答：1ヶ月の期間は知らせていた。生徒は自分で判断して行動できていた。) ・アンケートではルールやマナーが守られていて、交通安全も気をつけているという結果だが、実際の所がどうか検証もいるのではないかと。地域の人たちからの意見も参考にすると良い。
生徒指導	・アンケート結果を見ると生徒指導については全体的に良好である。 ・不登校の生徒が一定数いることは想像できるが、将来のことを考える場が必要だと思う。単に学校に行く行かないの問題ではなく、市内全域で集える場も必要ではないだろうか。 ・自分や友だちの良さを見つけ、自己肯定感を高める取組は大事で、それを学校全体で取り組んでいることは嬉しく思う。 ・生徒指導上の問題に先生方が迅速に対応されていることがよくわかる。共通理解を徹底していくことにより、更にきめ細かな指導につながると思う。
学習指導	・ICTを活用した今の時代に対応した学習が実践されていると思う。単に学力を伸ばすだけでなく、丹波篠山の地域特産を生かしたふるさと教育も必要だと思う。 ・授業が楽しく分かりやすいという生徒が多いのは、学校全体で授業改善・工夫に取り組んでこられている成果だと思う。 ・家庭学習については課題が残るようだが、自分もそうだったのでそういうものかなとも思う。家庭学習をする時間ではなく、わからないことをわかりたいと思って学習できる環境をつくっていくことが重要だと思う。 ・わからないことをわからないと言える環境は大切である。自分がわかっていないということを先生に知ってもらえていると思うとホッとするとし、授業に臨む気持ちが大きく違う。 ・コミュニケーションの一環としてタブレットの活用やゲーミフィケーションを取り入れてみるのも良いのではないかと。
地域とともにある学校づくり	・学校運営協議会では直接生徒たちと話をすることができてうまく運用されていると思う。 ・四つの力委員会で生徒たちとの交流は私たち委員にとっても学校理解、生徒理解などにおいて大変有意義なものだった。生徒は生徒会役員だけでなく、ランダムに選んだ生徒の意見があっても良いのではないかと。 ・実際に生徒とのグループワークなどを通して、地域の大人と話をしながら学校の課題解決に向かう熟議は全員にとってプラスになっていたと思う。こういう取組をたくさん生徒と行っていけるとさらに良い。

